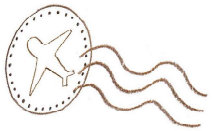
テーマ：とぶ



対象年齢：4、5歳児

西五反田保育園（品川区）

設定の理由

年長児クラスが飛行機や関連した仕事に興味をもっている。その興味を深めていく中で社会との繋がりをもち視野を広げる機会としていく。在園人数が少なく自然に触れることが多いことを利点とし、年長児の遊びをまね教えてもらうことをとおして異年齢の子どもと関わり、自分なりに身近なものをとぶ・とばすことへの関心をさらに深めていく

事例①：空港ってどんなところ？

ねらい：空港に実際に行き、経験したことを遊びに取り入れて楽しむ

環境設定

・羽田空港に遠足に行く
・見聞きしたことを再現できるよう段ボールやカラーポリ袋等を用意する

子どもたちの様子

・遠足では実際に飛行機を目の前で見るなかで発見したことを声に出し、友達と共有していた
・遊びのなかで何が必要なのかを出し合う場では自分たちの経験から活発に意見を出していた
・異年齢児を自分たちの遊びに招待しどうやって案内したら良いかなど、小さい子に対する対応の仕方を考えていた

振り返りをふまえた気づき

・実体験をすることでよりリアルなごっこ遊びへと展開していった。絵本や図鑑で調べるだけでなく自分たちの経験が活きていると感じた

事例②：飛行機を飛ばしてみよう

ねらい：どうやったら遠くまで飛ぶか試したり工夫したりする

環境設定

・飛行機（画用紙、割りばし、洗濯ばさみ、輪ゴム）
・着地点を比べて楽しむ（ビニールテープ、油性ペン、世界地図等）

子どもたちの様子

・完成した飛行機を飛ばして楽しむ。飛ばすところを空港とし、飛ぶ方向の床に国名を書いたビニールテープを貼った。友だちと飛ばす距離を競い合う中で、遠くまで飛ぶのではないかと輪ゴムを２本にする子が出てくる。羽の部分を折り曲げて角度をつけてみる子が出てくる。

振り返りをふまえた気づき

最初は完成したもので十分に飛ばした後、飛距離を競えると楽しくなるのではと思っていたが、子どもが「羽田空港にしたい」とつぶやいたことをきっかけに着地地点をいくつか作って子どもたちの身近な国に見立てることに変更した。すると、当初予想していたよりも盛り上がっていた。クラスメイトの中に海外にルーツのある子がいたり、海外に転園したりと世界が身近な子どもたちにとってどのようなアプローチをするとより遊びが盛り上がるかを改めて考えるきっかけになった。

事例③：空気砲で飛ばしてみよう

ねらい：
空気の力に気づき、試行錯誤しながら様々なものを飛ばす楽しさを知る

環境設定

・空気砲（段ボールに穴を開けたもの）
・紙コップ、風船、的

子どもたちの様子

・空気砲の穴に紙コップをはめて、飛び出す強さ、高さを競い合う。紙コップを並べて的にすると、飛び出す角度や向きを工夫し始める。
・縁日の的あて、運動会の親子競技の風船運びで空気砲を使う。親子、異年齢児と一緒に行うと、空気砲の扱い方のコツを積極的にアドバイスしていた。

振り返りをふまえた気づき

・目に見えない力で、物が飛ぶことで不思議に感じて、強く子どもたちの興味を引いた。紙コップだけでなく、紙、ビニールなどを飛ばして、自ら試す姿が自然とみられた。何度も遊んでいるうちに「掃除機みたい」と空気の面白さを発見していた。
・子どもたちの興味に合わせて、行事に取り入れたことで、楽しさを共有したいという思いをもって取り組めていた。保護者に日頃の保育の成果を知らせるきっかけになり、子どもと保護者のコミュニケーションが多く生まれた。

事例④：紙飛行機を飛ばしてみよう

ねらい：経験したことを自分なりに試行錯誤しながら楽しむ

環境設定

・劇団「風の子」の公演を観る
・コピー用紙、折り方が記載してある本

子どもたちの様子

・劇中に紙飛行機を使った演出があり公演後、紙飛行機の作り方を劇団の方から聞いたことで紙飛行機作りが始まった。はじめは自分で折った紙飛行機は思うように飛ばず、もらった見本を飛ばしていたが自分で折ったものを飛ばしたくて何度も折っては飛ばすことを繰り返すようになった。
・折り方だけでなく飛ばし方を教えてもらったことで自分で折った紙飛行機が飛ぶようになってくると本を見ながら違う種類にも挑戦するようになった。

振り返りをふまえた気づき

・これまでの活動の中で紙飛行機を折る経験もしてきていたが、劇中で目の前で旋回して飛んだ紙飛行機を見たことで自分でも同じように飛ばしてみたいという気持ちが大きくなった。気持ちが盛り上がっているうちに折り方や飛ばし方を教えてもらったことが継続する大きな要因となっていた。
・毎日のように試行錯誤していく中で得た気づきを友達にも共有する姿も見え、異年齢の友達とのつながりも広がっていた。